

平成 2 2 年度
事務事業の点検及び評価報告書

平成 23 年 12 月
恩納村教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。

そのため、恩納村教育委員会でも、教育行政の効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第27条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用も図りました。

この報告書は、毎年作成し、公表していくこととなりますが、教育委員会としては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくこととしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項に規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関する事、教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関する事など教育行政の執行管理を行っています。

通常業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は4年となっています。平成22年度は、宮平千佳委員が選任されました。島袋委員が委員長に再任され、渡口委員が委員長職務代理に選任されました。

平成22度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	島袋正重	平成21年5月1日～平成25年4月30日	平成13年	3期10年	委員長10年
委員	渡口美智子	平成21年7月1日～平成25年6月30日	平成17年	2期6年	委員長職務代理者
委員	宮平千佳	平成22年4月1日～平成26年3月31日	平成22年	1期1年	
委員	宜志富栄	平成19年4月1日～平成23年3月31日	平成19年	1期4年	
教育長	石川哲夫	平成21年4月1日～平成25年3月31日	平成21年	1期2年	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成22年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村人材育成補助金交付要綱制定の件 4. 恩納村学校評議員の追加委嘱の件 5. 教育委員長選任に件 6. 教育委員長職務代理者選任の件 7. その他の協議事項 ・教育の日制定について及び全国学力学習状況調査結果公表について
5月定例会	5月21日 午前10時	役場1階会議室	4人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村要保護及び準要保護児童・生徒めがね購入時援助事業実施要綱制定の件 4. 恩納村検定受検料助成事業実施要綱制定の件 5. 恩納村地域学習塾助成金事業実施要綱制定の件 6. その他の協議事項 ・「児童・生徒支援記録簿」作成要綱の件 ・市町村への権限移譲に関するアンケートの件 ・平成22年度中頭地区市町村教育委員会連合会総会及び研修会の件

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
6月定例会	6月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	1 前回来議概要の承認 2 教育長の業務報告 3 その他の協議事項 ・教職志望者研修会の件 ・学校訪問総括の件 ・指導方法改善加配の恩納小学校配置の件 ・学習支援員の活用の件 ・地域塾の件
7月定例会	7月13日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回来議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 平成23年度使用小学校教科用図書採択の件 4. 初任者研修に係る指導教員の命課書の交付の件 5. その他の協議事項 ・「恩納村児童・生徒支援記録簿」作成事業要綱（案）について ・平成22年度恩納村教育委員会学校訪問記録について ・平成21年度事務事業の点検及び評価報告書について
8月定例会	8月20日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回来議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 平成22年度要保護及び準要保護児童生徒認定の件 4. 平成22年度恩納村立幼稚園保育料減免者決定の件 5. 恩納村教育振興審議会規則の一部を改正する規則の件 6. 恩納村心身障害児適正就学指導委員会の委員の委嘱の件 7. その他の協議事項 ・平成21年度教育委員会事務事業の点検及び評価報告書の件 ・全国学力学習状況調査の件
9月臨時会	9月1日 午後1時	役場1階会議室	5人	1. 前回来議概要の承認 2. 平成21年度恩納村教育委員会の事務事業の点検及び評価報告書の件 3. 職員の辞職の件
9月臨時会	9月6日 午前9時	役場1階会議室	5人	1. 前回来議概要の承認 2. 平成21年度恩納村教育委員会事務事業点検及び評価報告書の件

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
9月定例会	9月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度沖縄県市町村教育委員研修会について ・地域学習塾について ・学校訪問について ・危機管理マニュアルについて ・少人数学級（30人・35人学級）の推進の件
10月定例会	10月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度研修会における分科会議題案の件 ・平成24年度文教施策とその予算措置に関する要請の件 ・平成22年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修及び講演会の件
11月臨時会	11月12日 午前10時	役場1階会議室	4人	1 前回会議の概要の承認の件 2 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・点検評価外部評価委員会からの答申 ・中学校統合問題の諮問について 3 その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・秋田県先進校視察研修報告書について
11月定例会	11月19日 午前10時	役場1階会議室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則の件 4. 恩納村立幼稚園預かり保育実施要綱の制定の件 5. 恩納村教育委員会指定校の変更許可基準の件 6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度学校事故防止に関する年間指導計画の件 ・中学校統合問題の件 ・教育委員会機構改革の件 ・12月補正予算の件

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
12月定例会	12月21日 午前10時	役場1階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 社会教育主事併任の件 4. 恩納村教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の件 5. その他の教議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度市町村教育委員、・教育長研修会開催の件 ・平成22年度中頭地区市町村教育委員会連合会講演会開催の件 ・幼稚園教育の制度改善について要請の件
1月定例会	1月21日 午前10時	役場3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・「恩納村児童・生徒支援記録簿」作成事業要綱（案）の件 ・平成23年度教育委員会施政方針（案）の件 ・石狩交流派遣事業の件 ・校舎改築の現状報告 ・県学力到達度調査の結果報告 ・教職員各種手当事務の市町村権限移譲の件 ・給食センターの人的体制の件 ・中頭地区学対実践発表大会、市町村教育委員研修会の件
2月定例会	2月21日 午前10時	役場3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村立学校管理規則の一部を改正する規則の件 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援員配置の件 ・恩納村議会からの要請事項回答の件
3月臨時会	3月2日 午後2時	役場3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 平成23年度公立学校管理職及び教諭等の定期人事異動内示承認の件 3. 平成23年度恩納村立幼稚園定期人事異動の内示（案）承認の件 4. 平成23年度教育委員会職員の人事異動内示（案）承認の件

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
3月定例会	3月22日 午前10時	役場3階委員会室	5人	1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 恩納村博物館非常勤館長の設置に関する規則の一部を改正する規則の件 4. 恩納村教育委員会職員に係る人事異動の承認の件 5. 恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱の件 6. 恩納村心の教室相談員の委嘱の件 7. 恩納村立博物館非常勤館長の委嘱の件 8. 社会教育委員の委嘱の件 9. 恩納村社会教育指導員の委嘱の件 10. 恩納村体育指導員の委嘱の件

なお、教育委員会で審議された案件を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規程・要綱等	人事関係	その他	合計
0件	13件	18件	44件	75件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成22年度中における主催行事や学校行事への教育委員の出席状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平22年4月1日	役場2階会議室	平成22年度職員辞令交付式	島袋委員長・教育長
4月2日	総合保健福祉センター	平成22年度教職員辞令交付式	全委員
4月3日	名桜大学	名桜大学入学式	石川教育長
4月7日	恩納小中学校体育館	中学校入学式	石川教育長
4月8日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館 恩納小中学校体育館	小中学校入学式 小中学校入学式 小中学校入学式 小中学校入学式 小学校入学式	島袋委員長 宜志富委員 宮平委員 渡口委員 石川教育長

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
4月9日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式 入園式 入園式 入園式 入園式	島袋委員長 宜志富委員 石川教育長 宮平委員 渡口委員
4月13日	安富祖校	安富祖校改築工事安全祈願祭	全委員
6月1日	安富祖小中学校	学校訪問	8時から12時 全委員
6月2日	喜瀬武原小中学校	学校訪問	〃 全委員
6月3日	恩納小中学校	学校訪問	〃 全委員
6月15日	安富祖小中学校	中頭学対学校訪問	9時から12時 全委員
6月16日	山田小中学校	学校訪問	8時から12時 全委員
6月17日	仲泊小中学校	学校訪問	〃 全委員
7月1日	仲泊小中学校	地域教育懇談会	全委員
7月9日	喜瀬武原公民館	地域教育懇談会	全委員
7月21日	宇加地公民館・塩屋公民館	地域教育懇談会	全委員
7月22日	山田公民館・真栄田公民館	地域教育懇談会	全委員
7月26日	大田公民館	地域教育懇談会	島袋委員長、宜志富委員、渡口委員、石川教育長
7月27日	瀬良垣公民館	地域教育懇談会	全委員
7月28日	南恩納公民館	地域教育懇談会	全委員
7月29日	恩納公民間	地域教育懇談会	島袋委員長、宮平委員、渡口委員、石川教育長
7月30日	谷茶公民館	地域教育懇談会	全委員
8月9日	コミュニティセンター	恩納村少年主張・おはなし大会	島袋委員長、渡口委員、宜志富委員、石川教育長
9月22日	山田小中学校	学校訪問	島袋委員長、渡口委員、宜志富委員、石川教育長
9月24日	仲泊小中学校	学校訪問	島袋委員長、渡口委員、宜志富委員、石川教育長
9月27日	安富祖小中学校	学校訪問	全委員
9月28日	喜瀬武原小中学校	学校訪問	全委員
9月29日	恩納小中学校	学校訪問	島袋委員長、渡口委員、宜志富委員、石川教育長
9月30日	役場1階会議室	退職辞令交付式	島袋委員長
11月2日	ゆうなホール	中学生フォーラム	宜志富委員、渡口委員、石川教育長
10月10日	各小中学校	運動会	全委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
1月18日	ゆうなホール	村学対実践発表会	全委員
1月30日	仲泊小中学校 山田小中学校	学習発表会 学習発表会	渡口委員 宮平委員
3月13日	仲泊中学校体育館 山田中学校体育館 恩納小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 安富祖小中学校体育館	中学校卒業式 〃 〃 〃 〃	島袋委員長 渡口委員 宜志富委員 宮平委員 石川教育長
3月17日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	卒園式 卒園式 卒園式 卒園式 卒園式	石川教育長 宮平委員 宜志富委員 渡口委員 島袋委員長
3月18日	安富祖小中学校体育館 仲泊小中学校体育館	小学校卒業式 小学校卒業式	石川教育長 島袋委員長
3月23日	恩納小中学校体育館 山田小中学校体育館	小学校卒業式 小学校卒業式	宜志富委員、石川教育長 渡口委員
3月31日	2階会議室	退職辞令交付式	島袋委員長

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、21年度から地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。平成22年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
平成22年5月16日	役場1階会議室	村校長会との懇談会	島袋委員長、渡口委員、石川教育長
5月10日から11日	浦添市てだこホール	沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会、研修会	全委員
6月18日	中城村吉の浦会館	平成22年度中頭地区市町村教育委員会研修会	全委員
7月15日	中頭教育事務所	中頭地区市町村教育委員会新任教育委員研修会	宮平委員
10月4日	那覇市民会館	沖縄県市町村教育委員研修会	全委員
12月6日	山田小中学校	大学院大学講演会	島袋委員長

平成 23 年 2 月 2 日	県庁 4 階講堂	平成 22 年度市町村教育委員会教育委員、教育長研修会	全委員
2 月 4 日	1 階会議室	村長との意見交換会	島袋委員長、宜志富委員、宮平委員、石川教育長
2 月 7 日	中頭教育事務所	中頭地区教育委員会連合会講演会	島袋委員長、渡口委員、石川教育長
2 月 19 日	中城村吉の浦会館	平成 22 年度中頭地区学対実践発表会	島袋委員長、渡口委員、宮平委員、石川教育長

3 事務の点検評価について

事務事業の点検及び評価は平成 19 年度から実施していますが、平成 22 年度事業評価については、平成 21 年度同様に、施政方針に示された事業など主な事業も対象としました。また、効果的かつ効率的な事業の実施を行なうため、前年度の課題への取組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行なうこととしました。

そのため、事業評価シートの項目を「事業項目及び事業内容」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」とし、総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続する事業、
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続する事業
- ③ 事業の廃止又は終了する事業

の 3 項目で判断することとしました。

しかしながら、評価が翌年度の 10 月に行なわれることから、課題に対する取組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取組みは 1 年遅れになることがあります。

評価の方法については、平成 22 年度と同じく 4 段階評価に目標以上に効果をあげることができた場合の評価指標 (S) を加えて次のとおり 5 段階評価としました。

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成 22 年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

1 学校教育課所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会研修事業	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	更なる自主研修の実施。	県教育委員会連合会の研修会や中頭地区教育委員会連合会の研修会への参加、村校長会との懇談会の開催、各字地域懇談会への参加、村長との意見交換会の開催。	委員各自が地域教育懇談会への参加、村長との意見交換会、校長会との懇談会等を通して本村の教育課題を共有することができた。そのことにより委員会会議での議論が活発になった。	更なる自主研修の実施と地域教育懇談会への参加及び他団体との意見交換会等の取り組み。	B	①現状の内容で継続
学校事務職員研修事業	学校事務職員の事務能力の向上及び効率化を図るため、毎週水曜日の午前中、拠点校に集って給与、サービス、文書等の取り扱いについて共通理解と点検を行う。また、臨時的任用職員配置校の支援にあたる。	平成 21 年度は仲泊校美術室で共同事務研修を実施していた場所を変更依頼。各校が事務職員一人配置のため行事等で実施出来ないこともあった。	時間的損失を最小限にとどめるため、場所を恩納校へ変更する。毎週水曜日の午前中に共同事務研修ができるよう各学校行事との調整を行う。	平成 22 年度は、恩納校を拠点校に位置づけ、仲泊校が全体の世話をした。定例研修会が計画通り実施され、職員の給与・サービス・公文書の取り扱いについて滞りなく取り扱われた。臨時的任用職員の支援に努めた。	平成 24 年度からの学校事務の教育委員会権限移譲に伴う拠点校の指定及び人的配置・貴養育事務所との連携を図る。学校訪問時における関係文書の点検を実施する。	A	①現状で継続
学校評議員設置事業	村民の意見を学校経営に取り入れることで地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に 5 名以内の学校評議員を配置した。	評議員の出席に個人差があり、人選に工夫が必要である。	校長会での意見交換会をもとに、各校長からの推薦を受けて配置する。	学校経営についての説明及び地域との連携についての意見交換ができた。学校評議員の出席状況は前年と変化なし。「出席率 89.8%」	学校評議員の意見を取り入れて改善している項目とまだ改善されていない項目がある。取り組みについての学校格差も存在する。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
校長会・教頭会・校務研修会事業	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換をし、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	各学校の経営状況や村の教育課題を全体で把握し、改善策を検討するなど、より具体的な情報交換の場としての活動が望まれる。視察研修結果を学校経営へ反映させる。	行政説明及び課題について別途提案し、改善に向けて具現化する。	各種事業の説明と共通確認を図った。継続事業や新事業について意見交換し、改善に向けて取組んだ。※学対事業・各種研修会のスムーズな運営ができた。	村公務研究会汎事業を学校現場に反映させるため、ポイントを絞った研修を実施する。村統一事項の確認と、新学習指導要領完全実施のための共通理解。村行政の方向性について確認する。	B	①現状で継続
教育相談事業	各種の事情により配慮を要する幼児児童生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。	相談業務充実のため、教育相談員について村民への周知策が必要である。	学校訪問を行い、教育相談業務内容についての周知を図る。	各学校の心の教室相談員との連携により、必要に応じた相談業務に従事した。	チラシやポスターの配付や村広報に掲載し、周知を徹底する。学校訪問を実施する。	B	①現状で継続
教育委員会学校計画訪問	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	教育委員と教職員との意見交換の場が必要である。	全体会を設定しての意見交換会を実施する。	本村の課題である学力向上対策の視点から授業参観主体の訪問を実施した。	幼稚園視察や給食参観・教育委員会と教職員が意見交換する場を設定する。サービス関係文書の点検をする。	B	①現状で継続
中学生フォーラム事業	生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と企画力、発表力、表現力、協調性を育成する。	質疑をもっと活発にするために資料を基にした質問事項を、事前に該当校へ送る取り組みが必要ではないかとの反省がでた。新型インフルエンザ等への対応も必要である。	質疑を活発化させるために、事前に資料を配付する。	発表者は生徒会に関する課題について日頃考えている事を発表し、フロアからは、質問や意見が出るなど、充実したフォーラムとなった。	生徒会役員同士の発表・質疑・応答と、質疑カードを書かせ、深まる内容を取り上げることでマンネリ化を防ぎたい。	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
奨学資金貸与事業	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	今後も、返済については積極的に自動送金システムを勧め、貸金を少しでも多く回収したい。	自動送金システムの推進及び継続的な請求事務を行い、奨学資金の確保に努める。	償還額が、過年度に比べ回収金額には大きな成果はなく、今後において新たな回収手段を検討し、課題である未収金対策を講じていきたい。本年度貸付金額は、県外 16 名、県内 14 名へ 10,920,000 円となりました。	貸付金の回収については継続的な請求通知を要し、回収の課題対し、返済責任のある保護者及び連帯保証人への請求も含め強化し、年間計画を作成し、奨学金貸付の原資確保に努める。	B	① 現状の内容で継続
恩納村テスト事業	村独自でテストを作成し、村内児童生徒の国語・算数(数学)の学習状況を把握する。	作成に現場の教師を活用して継続的に事業を実施すべきである。	教師によるテストの作成時間の確保を事前に調整する。	国語・算数(数学)の結果の分析が、全国学力調査や各種テストとの関連的分析が難しかった。	全国学力調査・到達度調査・基礎学力調査の実施時期、内容関連が図れないため厳選する。	C	③事業の廃止
職場体験学習事業	村内 5 校の中学 2 年生を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	生徒個々の評価は様々であるが、全体として、受け応えや態度の指導に努力が必要である。職種拡大を検討する必要がある。	事前におけるマナー講習会を実施する。教育委員会による職場開拓する。	生徒 1 人ひとりの希望に沿えるような職場体験となった。職場体験を通して主体的に職業について考える機会となった。	学校より、職場体験の事前・事後の学習の違いがあり、村内一貫した指導に変更する必要がある。職場開拓や職場への事前説明が必要。	B	①現状で継続
幼稚園教員研修事業	村内 5 幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	県外研修会、サマースクールへの予算の確保が必要である。教材研究と園内研修の時間確保に努める。	県内外の研修会へ教諭を派遣する。	毎月独自に幼稚園教諭研修会を実施した。	村内研修会に対する指導主事の参加が必要である。県内外研修会への幼稚園教諭の派遣が必要である。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
幼稚園の絵本整備事業	絵本に親しむ幼児を育成するため、図書備品の拡充を図る。	絵本に関する更なる啓発活動が必要である。	新刊案内などの啓発活動を行う。	現場の要望に対する予算確保ができた。	親子読書や地域での絵本活用状況の掌握が必要である。	B	①現状で継続
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	運動遊具などの安全点検の強化及び活用方法の研究が必要である。	学校訪問における備品活用の確認を行う。	現場の要望に応じた備品の購入と監査を実施した。施設課題に対する迅速な対応を図る。	幼児の発達課題及び幼小連携に応じた備品の中長期的な購入計画を作成する。	B	①現状で継続
特色ある幼稚園教育の推進	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。	具体的で効果的な体験活動を計画する必要がある。	地域人材を活用した体験活動を実施する。	祖父母や地域人材を活用して独自の教育活動を展開した。	幼小連携や地域人材を生かした保育活動の実施を行う。	B	①現状で継続
教育振興備品整備事業	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	教育委員会関係行事予定表（村内全世帯配付）に備品監査日を印字し、継続的な備品監査の実施が必要である。	備品監査の実施と適切な購入・廃棄手続きの整備をする。	計画的な備品購入と監査ができた。	教育委員会による各学校の全備品管理システムの構築を図る必要がある。定期的な備品に対する監査を実施する。	A	①現状で継続
就学支援事業	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。	今後も学校と連携の必要である。	学校との連絡を密にする	密にすることによってスムーズに支援できた。学用品、医療費、給食費等の援助。小学校 163 人、中学校 147 人	支援業務の保護者への周知徹底	B	①現状で継続
宿泊学習事業	村内同学年児童の交流を通して、お互いの親睦とコミュニケーション能力の育成を図る。	次年度参加できない学校があり、同事業を継続するかどうかを検討する必要がある。	全学校参加の意義について再確認する。	3校で実施、2校は単独開催した。	次年度は、対応可能な学校で実施する。	C	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
心の教室相談員事業	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	年度途中で「配置換えした相談員が退職したため、人員確保に時間がかかり、相談業務に支障が生じないようにする。	心の相談活動の継続の視点から、年間を通した人材を確保する。	全ての学校で1日勤務及び通年での配置ができた。	村内に、臨床心理士の確保による心の教室相談の拡充が望まれる。	B	①現状で継続
情報教育推進事業	各学校の児童生徒のコンピュータ操作能力及び活用能力の向上を図る。	情報機器の整備は十分であるが、活用については、人材の確保と予算の継続が必要である。	人的の確保と予算の継続を行う。	年間指導計画に基づいた学習活動が展開された。	情報支援員の配置と情報教育全体計画の策定が必要である。パソコン室実績報告書の提出を求める。	B	①現状で継続
特別支援員配置事業	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	人材の確保と予算の継続確保が必要である。	人材の確保と予算の継続を図る。	学校現場の要望に応じた配置をすることができた。	配置に向けての要綱の整備と活用に向けての研修を実施する。	A	①現状で継続
英語指導助手派遣事業（ALT）	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	年度途中で契約時数が切れた事例があり、学校の詳細計画が必要である。	年間活動計画を作成する。	新指導要領に対応できるよう小学校外国語活動に登用した。	年計作成と小学校外国語教育での効果的な活用方法の検討が必要である。	B	①現状で継続
対外競技派遣事業	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	実績について情報をつかむとともに迅速な予算の確保に努める。	派遣に向けての予算の確保をする。	中頭大会・県大会でも活躍する部活動がある。大会参加料、派遣費等を負担することにより、保護者の負担軽減と運動・部活動の振興に寄与した。	児童生徒の派遣については、今後とも最大限に対応することが望まれる。	A	①現状で継続
中学校部活動支援事業	中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	各学校の実情に合わせた予算の確保に努める。	補助予算を確保する。	部活動については、毎年実績を上げている。	今後とも、部活動活性化のための人材及び活動予算の確保が必要である。	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
知能検査 標準学力検査事業	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	学級内の児童生徒の状況を踏まえて個別指導へとつなげる必要がある。	学校・家庭が情報を共有化し、生徒個々の課題解決に向けた共通実践をする。	児童生徒の学力の定着状況の把握を年次毎に掌握でき、本村の課題を明確にできた。	検査結果の活用方法について学校差がある。	B	①現状で継続
安富祖小学校校舎 改築事業	安心・安全な教育環境の確保	円滑な改築工事の実施	工事期間中に工事受注者及び学校側と工程会議を密に行う。	老朽化している校舎を改築した事により、校舎の耐震性が確保でき、又設備の充実が図られ、よりよい学習環境を確保する事ができた。	今後、既存校舎の空調設備が老朽化している為、故障が多く改修が必要である。	A	③事業終了
山田小中学校校舎 改築事業	安心・安全な教育環境の確保	事業の採択	校舎建設計画に関する事を学校及び地域と調整し実施設計を終了させ、予算の確保を行なった。	現在工事中	現在工事中	A	① 現状の内容で継続
学校施設持管理事業	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保	各学校の体育館の雨漏り対策に対する工法の検討が必要。	防水修繕工事を密に行う。	各学校の施設や設備の修繕などを迅速に行うことにより、適切な維持管理が図られ、よりよい教育環境が確保できた。	各学校のプール施設及び既存校舎の空調設備が老朽化しているため、故障が多いので、修繕及び改修の予算の確保	A	① 現状の内容で継続

2 社会教育課所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校週5日制対応事業	地域及び青少年団体が開催する事業を村が支援する。(4団体)	事業の申請をする団体が少なく更なる周知徹底が必要。	周知を図るため、各字公民館及び子ども会長へ文書の発送及び公民館講座等での事業の説明を行った。	申請団体1団体(参加者17名)で、前年度比3団体の減であった。	平成14年度に完全学校週5日制が施行され、年月が経過し定着しており、新たな展開が求められる。	C	③事業の廃止
国際交流派遣事業	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。(中高校生対象、6名)	今後も事業の周知を図り、応募者を増やす努力が必要。	周知を図るため、各学校及び公民館への案内を早め実施した。(4月上旬)	中学生6名が参加。高校生の申し込みがなく、全て中学生である。参加者からの報告書には、英語習得への意欲の向上、周囲への感謝、自己啓発に関する意見があり、人材育成において効果が伺える。	参加申込者が減少傾向にあり、周知の方法を工夫すると共に、英語ストーリーコンテスト等との連携や、研修後の参加者による意見発表等の機会を学校等で設けてもらうなど、啓発活動の改善が必要。	B	①現状で継続
サバイバルキャンプ事業	無人島においてキャンプを行うことにより、自然に親しみ、仲間と協力することで協調性を育み、健康で心豊かな青少年の育成を図る。	平成4年から事業が継続されており、プログラムの内容を改めて見直す必要がある。	重複した日程等を見直し、日程を1日短縮し、食糧の確保や食事作りなどの基礎的な活動に重点を置いた。	プログラムを見直し、基礎的な活動に集中して取り組めた。日程の短縮により、体調不良の参加者がいなかった。	事業の目標や、プログラムの検討を行い、事業の目的を促進すること及び、安全確保の徹底と児童生徒への指導、支援においてスタッフの資質の向上に努める。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
成人式事業	村内の各団体の代表者が一堂に会し、新成人を励まし、祝う。	アンケートを実施して、成人式に何を求めているかを把握し、式の内容を検討する。	各校区から数名の代表者を選出し、実行委員（8名）を立ち上げ、式典後の祝賀会の企画・運営に携わって頂いた。	新成人が自主的に参画し、企画・運営を行ったことは、大きな前進といえる。実行委員として関わった新成人には、無事成功したことの達成感と、社会人としての自覚を覚醒させるよい機会となった。	今後とも新成人の自主的な参画を推進すると共に、広報を活用し、実行委員の活動及び心境等を紙面で表現し、啓発活動へとつなげたい。	A	①現状で継続
シルバー教室 ・グラウンドゴルフ ・災害対策講座 ・EM活用講座 ・地域交流（幼稚園） ・男の料理教室 ・女性メイク教室 ・老老介護教室 ・スクラップブック ・移動教室（県内北部）	高齢者が仲間とのふれあいを通して、生きがいづくりのできる機会とする。 全8回	ミニデイサービスやがんじゅう大学と内容が重複しない、生涯学習として生きがいや社会貢献に繋がる内容の講座を参加者の要望に添いつつ取り入れながら開設する。	前年度好評の災害対策講座、介護講座、グラウンドゴルフ等を取り入れ、学びを深めると共に高齢者の方の生活や生き甲斐、または社会貢献に繋がる内容を企画できた。また、教室の年間活動を知らせる広報誌「みーぐるぐる特別号」を発行し、啓発活動へとつなげた。	参加者は、延べ150人で前年度に比べ30人ほど減少したが、参加者が意欲的に講座へ取り組むことができた。また、地域の人材を活用した講座が多く、講師との交流ができた。	・参加者が高齢化し、体調管理、怪我予防等安全対策への配慮が必要。 ・老人会新会員への参加呼びかけを積極的に行い、参加者の拡大に努める。 ・開催回数が多く、全ての講座に参加できないとの意見もあり、開催回数の見直しが必要。 ・講座の内容を学校等でのボランティアに繋がるような講座づくりに努める。	B	②縮小（回数の減）して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
<p>生き生き女性教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ズンバ教室 ・スクラップブックキング ・料理とテーブルコーディネート ・メイクセラピー ・介護の基礎講座 ・移動教室（県内図書館巡り） 	<p>学習機会をとおして資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習の啓発の場とする。</p> <p>全6回</p>	<p>要望の多様化に対応しつつ個人の楽しみに終始することの無きよう、社会参加や地域リーダー育成に繋がる講座を開設する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・村婦人会定例会で趣旨説明等講座の紹介をし、地域婦人会への参加呼びかけを行った。 ・講師の紹介や比較的サークル活動へ移行しやすい講座の内容に取り組むことで各地域での自主的な実施を促した。 	<p>参加者は延べ95名。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講した内容を地域で継続して学習したという実践が行われた。 ・成果発表会への積極的な参加が得られた。 	<p>同じ講座を継続して受講したいとの要望が多く、講座終了後のサークル活動への指導・助言等の支援が必要。また、個人の楽しみに終始することなく、社会貢献や、地域のリーダー育成に繋がる講座づくりに努める。</p>	A	①現状で継続
<p>成人教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EM基礎講座 ・ミニコンサート（成果発表会） 	<p>ストレス等により不健康な生活を送りがちな働き盛り世代を対象に、文化教養、健康管理等の学習をとおして資質の向上と生き甲斐づくりを図りつつ、地域活動への啓発を図る機会とする。</p> <p>（全2回）</p>	前年度取り組み無し	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ以外の生涯学習の機会を提供し、豊かな学びをとおして、自己実現に繋がるような取り組みを図る。 ・地域の人材（主に成人の男性）の活用を図り地域活動への啓発へと繋げる。 	<p>参加者延べ110名・参加者の学習要求に応える機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師が地域の方で、より深い交流が実現できた。 ・2回目のミニコンサートでは、公民館講座、各教室等の成果発表を併せて開催し、多くの参加者があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を把握し、更なる活用を図ることに努める。 ・各教室及び講座などの成果を発表し、生涯学習活動の啓発を図るため、成果発表会を新たに企画する必要がある。 	B	①現状で継続
<p>青年教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街づくりシミュレーション ・講演会「ライフガードという仕事」 	<p>将来を担う人材育成の一環として、文化・教養・健康・地域づくりなどの学習の機会を提供することで、視野を広め、参加者の資質の向上と社会参加への意欲を高める。（全2回）</p>	前年度取り組み無し	<p>参加型講習や同年代の方を講師として迎えるなど、社会参加や自己啓発等の意義を考える機会となるよう取り組む。</p>	<p>参加者延べ14名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加や自己啓発の意義を考えるよい機会となったが、参加者が少なく、参加者個人への効果はあるが、全体的な効果としては課題が残る。 	<p>参加者が思うように集まらず、教室の開催方法や広報の方法などを工夫すると共に青年団協議会との連携を図り参加者の拡大に努める。</p>	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
子ども教室 ・子ども料理教室 山田、仲泊校 恩納校 安富祖、喜瀬武 原校	子どもの生きる力を育成し、併せて地域の文化、産業にふれる機会とし、地域の人々との交流や仲間づくりの機会とする。 (全3回)	インフルエンザの影響により、当日のキャンセルが多かった。	学校や子ども会からの呼びかけに努め、早めの募集と実施直前の参加確認を行った。	参加者延べ29名 地元の食材を活用し、地域の方を指導者に迎え、地産地消の意義を学び、地域の人々との交流ができた。また隣接した校区の合同開催では、参加者同士の交流ができた。	・学習内容が多岐にわたるよう情報の収集と活用を図ると共に広報活動を工夫し参加者の拡大に努める。	B	①現状で継続
親子教室 ・キッズコーチング教室 ・大人のコーチング教室	家庭内外の教育環境を見つめ直し、親子のふれ合いと家庭の教育機能の向上を図る機会とする。 (全2回)	前年度取り組み無し	家庭教育力の向上を図るための内容を企画し、その効果を啓発活動へと繋げるよう取り組む。	参加者延べ22名（親8名、子14名） 子ども達が目標へ向かって行動する意欲を高める機会となった。親が学ぶ事への関心を高める機会となった	家庭・地域での教育力の向上が、総合的な学力の向上に繋がってゆくことを認識し、事業を推進し、参加者の拡大に努める。	B	①現状で継続
らくらく子育て教室 ・骨盤体操教室 ・スクラップブック ・講演会「子育てにお話と人形劇」 ・エコと安全洗剤 ・子どもの病気と予防	親子のふれあいの大切さを再認識し、子どもたちの「生きる力」を育む基礎的な資質や能力を育成する場である家庭の教育機能の回復及び参加者相互の情報交換と仲間づくりの場とする。 全5回	子育て教室は、子育て支援センター利用者が中心となり参加者の幅が狭い。参加者と地域との交流や情報の発信の強化が必要。	公民館、学校、保育所、事業所（農協や売店等）での広報活動や、村福祉課との連携による広報活動を実施。	参加者は、延べ95名 で、子育て支援センターの利用者が多かったが、新しく参加する保護者が増え、育児に対する不安解消や育児の楽しみ方などを伝えることができた。	支援センター以外での開催や、福祉課の検診事業との連携を図り開催する等参加者の拡大に努める。	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域リーダー研修 ・地域づくり講演会 ・村内視察研修	村内各地域及び団体間の交流を深めると共に地域のリーダーとしての資質の向上を図り、地域づくり、人材育成に繋げる機会とする。 (全2回)	前年度取り組み無し	地域づくり、人づくりに関する公演を開催し、地域活性化に向けた取り組みを模索すると共にリーダーとしての役割を探る為の内容に取り組む。	参加者は延べ70名。区長、各種団体役員等様々な立場の参加者があり、講師に活性化に取り組む県外の地域で活躍する方を招く事により視野が広がり、同時に我が地域の良さと課題に気づく機会となった。	地域のリーダー育成を目指し、継続していくこと。村内各字から参加していただき、地域づくりの課題と取り組みを共有し、学びを実践に繋げ、地域づくりに努める。	B	①現状で継続
専門分野研修 ・防犯と子育て支援教室 ・読み聞かせワークショップ ・災害対策講座 ・スポーツ講習会	ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。 (全4回)	前年度取り組み無し	村内で活動する各種団体の役員や、ボランティア団体の方、並びに青少年スポーツ指導者等を対象に活動や指導に関する内容の把握に努め、スキルアップに取り組む。	参加者は延べ153名 ・より専門的な知識を得ると共に、各地域で活動する方々の情報交換や交流の機会となった。	参加者の拡大を図るため、講座の説明や紹介に積極的に努める。	B	①現状で継続
公民館講座	地域住民に対して学習機会を提供するとともに指導者養成を図る。	今年度、公民館講座の開催を希望した公民館は5字。もっと多くの公民館が講座開催できるよう講座の紹介等を積極的に行う。	公民館講座の周知を各機会（婦人会総会、区長常会等）において実施し、実施の促進に努める。	参加者は延べ784名8字の公民館で計60回実施され、参加延べ人数ともに向上した。 ・成人教室と合同で開催した成果発表会への参加もあり、学習意欲の向上も図られた。 講座の種類としては、琉球舞踊「大漁節」、三線、フラダンス、クラフト手芸、足つぼマッサージ、骨盤体操等である。	公民館講座の周知徹底を図り、継続して事業が実施できるよう努める。また成果発表会を開催し、受講者の発表の機会を設ける。	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年劇場小公演事業	優れた芸術を直に鑑賞し、感動と喜びを与えることを目的とする。県文化課からの受託事業。	事業の趣旨を周知し、積極的に事業の実施を促進する。	事業実施の通知文書を早急に各学校へ周知し、事業実施の促進に努める。	仲泊校で実施。早めの事業実施を希望したため採択された。中頭地区音楽発表会前に実施された事もあり、生徒も高い関心を寄せていた。	継続して、村内の各学校において、実施できるように努めていきたい。	A	①現状で継続
村青少年健全育成事業	村の補助事業として村内各団体で青少年健全育成協議会を組織し、次代を担う青少年の健全育成を図る。	夜間街頭指導の方法に工夫が必要（参加者、時間帯等）。専門委員会を開いて今後の取組の改善を図る。	専門委員会を開催し、夜間街頭指導の実施方法を検討し、午後10時開始を午後8時開始とした。	午後10時から実施されていた街頭指導を午後8時から実施した。時間を早めたため、児童生徒、保護者への声かけにより啓発が図られた。また、例年行われている少年の主張大会・少年野球・中学陸上競技・小学生駅伝競走大会も多くの参加者があり盛況に終えた。	夜間街頭指導を継続すると共に各団体と連携を強化し、チラシ等による家庭・地域の教育力の向上に努める。	B	①現状で継続
人材育成激励金支給事業	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	村民のスポーツ振興や、競技力向上に寄与しており、今後とも事業の継続が必要である	スポーツ競技において、各大会の結果を踏まえ、対象者に対して激励金の周知を行った。	スポーツ競技においては、小学生1名（バドミントン）、中学生2名（バレーボール）、高校生18名（ソフトボール、バレーボール）、一般15名（駅伝、ソフトボール、バドミントン）合計36名。文化面においては、高校生2名（囲碁）の支給実績があり、特にスポーツ振興に寄与した。	スポーツ競技においては村民への周知が図られてきているが、教育、芸術、文化の分野において、事業の周知を図り、各分野の振興に努める取り組みが必要である。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実	地域住民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	新体力テストは、タイアップ事業として今後も継続する。会場地に十分なスペースがないため、実施できない種目があり、会場の確保が必要。また、参加者の年齢層に偏りがあるので、あらゆる年齢層が参加できるように各団体等への協力依頼や広報活動をする必要がある。	福祉健康課とタイアップ事業の一環として各種団体等と事務調整をした。	新体力テストについては、タイアップ事業として福祉健康課、各種団体等と事務調整をしたが、割り当てられた会場が消防分遣所との共同使用のため手狭であったため、福祉健康まつり会場での開催を断念せざるを得ず、単独で事業を実施したが、参加者12名（前年度参加者37名）と参加者が減少した。	今後も福祉健康課とのタイアップ事業を前提とし、各団体等と事務調整をし、実施する必要がある。また、体育指導委員に判定員資格を取得して貰い、上手く活用する必要がある、得られた情報を有効利用できるようにする必要がある。	C	①現状で継続 (一部内容を検討)
各種社会体育事業の充実 壮年バレーボール	地域住民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	壮年バレーボール大会は参加チームも多く好評であるが、内容等の見直しが必要。	好評であるため、試合会場を増やす、体育指導委員との連携などの運営内容を見直しして取り組んだ。	運営内容などを見直すことによって、大会運営がスムーズにいき、多くの村民の健康増進、交流に寄与することができた。 参加チーム：12	バレーボール経験者の参加が増え、大会がレベルアップしているが、経験者のいないチームとの格差が出てきているので、競技規則の検討が必要である。	B	①現状で継続 (一部内容を検討)
各種社会体育事業の充実 壮年サッカー	域住民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	壮年サッカー大会は参加チームも多く好評であるが、内容等の見直しが必要。	好評であるため、試合会場を増やす、体育指導委員との連携などの運営内容を見直しして取り組んだ。	運営内容などを見直すことによって、大会運営がスムーズにいき、多くの村民の健康増進、交流に寄与することができた。 参加チーム：20	年々参加チームが増加傾向にあるため、試合数などが増え、運営に苦慮しているため、大会日程を見直す必要がある。	B	①現状で継続 (一部内容を検討)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 キンボール	域住民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	キンボール大会は、参加者からも好感触なので、さらに良い大会にするために運営方法を検討して、開催する。	子どもから大人まで気軽に参加できるように、いくつかの 카테고리 を作って、大会運営をした。	いろいろなカテゴリーを作ることで、子どもから大人まで気軽に参加出来るようになり、多くの村民の健康増進、交流に寄与することができた。 参加チーム：12	参加者が増加傾向にあるが、参加地域にばらつきがあるので、参加者が村全域から増えるように広報活動等が必要である。	B	①現状で継続 (一部内容を検討)
各種社会体育事業の充実 ミニバレー		ミニバレー大会は、参加者からも好感触なので、さらに良い大会にするために運営方法を検討して、開催する。	子どもから大人まで気軽に参加できるように、いくつかの カテゴリ を作って、大会運営をした。	いろいろなカテゴリーを作ることで、バレーに親しみのない子供たちの参加が増えた。 チャレンジクラスA：4 (女性のみ) チャレンジクラスB：7 (小学生のみ) チャンピオンクラス：12	来年度以降は、大人の部の参加に増減がないので、大会開催日を検討する必要がある。 特にバレー経験者の参加が少ないようなので、他の大会等と重ならないような配慮が必要である。	B	①現状で継続 (一部内容を検討)
村体育指導員の資質向上	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、体育指導委員個々の資質の向上を促す。	これまでの取り組みの結果、体育指導員の資質向上につながっているので、引き続き指導・助言が必要。	県体育指導委員協議会や中頭地区体育指導委員協議会の主催する事業へ積極的に参加させ、資質の向上と意識改善を図った。 各学校のPTAが主催する学年行事でのスポーツ技術指導へ派遣をした。	21年度に引き続き、これまでの取組の結果、意識の向上や資質向上に繋がっている。 九州体指研修：1回 ※那覇市にて開催 県体指研修会：2回 中頭体指研修：1回 中頭体指講座：4回 軽スポーツ教室：10回 スポーツ指導派遣：2回 各種大会協力：6回	県や村等が主催する事業への参加率の向上等、意識改革や資質向上については、年々上がってきているが、各出身地区での教室や講座の自主運営が出来ていないので、更なる資質向上に向けて指導・助言が必要である	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	○自立運営については、各字体協との絡みもあるので、長期計画として指導・助言が必要である。 ○村体協については各専門部長等の殆どが村職員で構成されているので、村職員以外から専門部長を積極活用し、開かれた運営体制へ方向転換を長期的に促す必要がある。	○自立運営については、長期的な計画であるため、継続して指導・助言をした。	○郡大会において各競技とも競技力が向上している。 郡大会成績 バドミントン部男女優勝 ソフトボール部準優勝 女子バレーボール部準優勝等	自立運営に向けての指導・助言に合わせて、競技力の向上や普及につながるような事業実施が出来るように指導・助言を継続する。	B	①現状で継続
村立小中学校学校体育施設（プール）の一般開放事業	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。	○実質的に泳力及び体力の向上については水泳教室等を開催できず、課題として残っているので、引き続き開催に向けての課題を再確認する。 ○管理人募集の条件に、水泳指導の有資格者を指定する等の工夫が必要。	○開放期間中、水質管理・安全管理だけでなく、プール利用者に対して積極的に触れ合い、水泳指導について協力するよう指導・助言をした。	○有資格者ではないが管理人が水泳指導に携わるることによって、利用者の体力の向上、健康増進に繋がった。 利用延人数：1,164人 安富祖校：58人 喜瀬武原校：101人 恩納校：653人 仲泊校：152人 山田校：200人	○今後も水泳教室等の開催に向け、教育委員会だけでなく、福祉健康課とタイアップ事業としての検討が必要である。 ○募集条件についても、水泳指導有資格者を指定する等の工夫が必要だが、殆どがスイミングスクール等の職員のため、応募がないのが現状なので、募集条件の検討が継続して必要である。 また、夏休みの解放であるので、親子や一般の方の利用しやすいように、開放日程を検討する必要がある。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種団体等県外派遣補助事業	村民のスポーツや文化的活動に対する意欲を向上させ、各種スポーツ及び文化的活動の振興を図る。	村民のスポーツ振興や競技力向上に寄与しているため、今後も事業継続が必要である。	事業に該当する団体を把握するため、あらゆる面から情報収集をした。	情報収集をすることで該当者を把握することができ、多くの団体等を派遣することができ、村民のスポーツ振興に寄与することができた。 一般団体：2団体 (ソフトボール) 小学生：2団体 (小学ソフトボールクラブ・小学ラグビークラブ) 個人：1名 (小学バドミントンシングル)	村民のスポーツ振興や競技力向上に寄与しているため、今後も事業継続が必要である。	A	①現状で継続
平成 22 年度全国高校総合体育大会恩納村実行委員会補助事業の充実	平成 22 年度全国高校総体のソフトボール競技大会が本村で開催されるにあたり、実行委員会に補助金を交付し、その円滑な運営を図る。	大会の円滑運営を図るために、地域及び共催地、関係団体との連携が引き続き必要である。	大会の円滑運営を図るため、共催地の読谷村実行委員会をはじめ、各関係団体等との連携を図った。また、ムダな支出が増えないよう事業費の削減に努めた。	共催地の読谷村実行委員会をはじめ、各団体との連携を図ったことにより、大会を円滑運営することができ、事業を無事終えることが出来た。なお、事業費の見直しをしたことで、事業費も削減することが出来た。		A	③事業の廃止 (事業終了のため)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村体育施設維持管理事業	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	事業開始3カ年度目に入り、施設管理に対する年間サイクルには順応していると思われるので、自主事業の検討、村民優先雇用、村民の利用率向上のための施策を検討する必要がある。	指定管理者側と打ち合わせ会議を開催し、施設の利用率向上へ向けての自主事業の開催や村民優先雇用の指導・助言を随時うながした。	<p>体育の日の村民への無料開放・指定管理杯少年サッカー大会等の自主事業が開催されるようになり、利用率向上に繋がった。</p> <p>村民への無料開放実績 【開放施設】野球場・サッカー場・サブグラウンド・赤間運動場 ※村出身者の在籍する高校野球部と県内有数チームとの練習試合 石川高校・読谷高校・嘉手納高校 ※村内中学校野球部間の練習試合 山田・仲泊・恩納校 ※村内少年野球チームの練習試合 ティダ・キッズ・ファイターズ、瀬良垣クラブ、恩納クラブ、前兼久タイガース仲泊ヤンキース、山田ジュニアクラブ ※ラグビー講習会 仲泊小ラグビークラブ</p>	<p>自主事業が開催され施設利用率の向上に繋がっているが、まだ十分とは言えないので村主催事業と被る事がないように調整し、更に指導が必要である。</p> <p>また、これまで開催している自主事業は利用率の向上に繋がっているが、収益性がほとんどなく、委託費の削減に繋がっていないので、自主事業を開催する上で、収益性のアップに繋がるよう指導・助言が必要である。</p>	B	①現状で継続

3 学力向上対策委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域学習支援事業	学力向上対策委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	学校・地域・家庭が連携して活動できる地域支部事業の創設が必要である。	地域学習塾の芽だしと学対地域支部を位置づける。	全ての字で地域学習塾を開設した。地域支部を位置づけた。	地域学習塾における講師の確保と内容の拡充を図る。	A	①現状で継続
石狩市中学生交流事業	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※ 隔年ごとに派遣、受け入れで実施する。 「21年度は20名の中学生を受け入れ施設等見学、交流学习、体験学習、民泊体験を実施」	石狩側に新型インフルエンザの生徒が発生し、一部教師が交流日程から外れた。予防注射も受けていて、対策に落ち度はないが、養護教諭の同行が必要である。	インフルエンザだけでなく、事前の健康管理に努める。	互いの生活や歴史・文化を交流することによって内面的な成長を深めることができた。	交流の意義の再確認と受け入れ送る側の担当の役割分担の明確化を図る。 次年度は受け入となる。	B	①現状で継続
教育講演会事業	村民の教育に関する意識の高揚を図ることを目的に著名人を招き、講演会を開催した。 21年度は、元タレントの高見知佳さんを講師にゆうなホールで講演会を開催した。	本村の細長いという地理的な環境の中では、参加者の増加は厳しい。今後は、校区ごとにPTA・学校連携で実施する方向で検討が必要。	教職員を対象としての講演会の実施。	吉浜幸雅氏を講師に福祉センターにて開催。	新学習指導要領に対する教職員を対象とした情報教育及び特別支援教育、食育等の講座・授業づくり研修会の実施。	A	②事業内容を変更して実施

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
問題データベースの導入事業	全学年の学習内容を、学習材・プリント作成できるウェブ上のコンテンツを導入することにより、個に応じたきめ細かな学習に活用する。	学校間に活用の差が見られ、頻度の低い学校は高い学校へ割り振ることも検討したい。	利用率に合わせた予算の処置を検討する。	活用している学校とそうでない学校の差が大きかった。	村全体での効果的な活用が見られないため、事業は廃止する。	C	③事業の廃止
教職員先進地視察研修事業	学力定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	秋田市で学んだものを、個人として、学校としてどう生かすかが課題である	中堅教諭秋田県視察研修を実施する。校内研修での報告会を行う。	研修成果の共有化を図っている学校と個人研修の域を出ない学校がある。	視察研修は廃止し、秋田県より講師を招聘しての研修会に変更する。	B	②事業内容を変更して実施
学対実践報告会	恩納村学力向上対策の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する	時間設定と発表内容の精選を図る。	時間設定と発表内容の精選を図る。	学校・家庭・地域の立場から計画通り実施した。	保護者の参加者が少ない。実施期日や隔年開催も含めて検討する。学校報告会と村開催の役割を確認する。	B	①現状で継続
諸検定料支援事業	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力についての意識化と定着を図る。	本年度よりの新規事業		各学校とも希望者を募り実施した。	当初予算を消化できず、意義について保護者への啓蒙が必要である。	B	①現状で継続

4 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館運営	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会をとおしてふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図ります。	前年度評価無し	村民のニーズに添った多彩な企画展を企画すると共に、文化財を活用した事業の展開を図る。また芸術鑑賞の場としてミニコンサートなどの開催を図り村民が文化芸術にふれる機会を設けた。	22年度は、3回の企画展、1回のコンサート、2回の講座と「歴史ロードを歩こう」や「親子文化財巡り」を実施し、延べ1,941名の参加があった。企画展等の入館者を含めた年間入館者が、5,136名であった。博物館運営協議会については、事務局での調整がうまくいかず、開催することができなかった。	村内外の文化財や人材、その他芸術作品を活用した企画展や各種講座等の事業を展開し、ふるさと学習を啓発すると共に、年間入館者数の目標値を定め、達成できるよう努める。また企画展、講座等の開催時期についても効果的な開催に努め、立て看板等の活用など、広報の方法を工夫する。	B	①現状で継続
海に見える博物館 やちむんガラス工芸展 2010	村内の伝統工芸を紹介すると共に、体験教室を開催し、伝統工芸の魅力にふれる事により村民に伝統工芸や芸術に対する理解を深めてもらう場とする。	出展者や作品の更なる充実を図り、地域参加型の展示会を目指す。	作家個人の展示スペースのみではなく、「皿」というテーマで作品を集めた展示コーナーを設置するなど、作品の充実を図った。工芸体験教室を開催し、地域住民の参加促進を図った。	6/29～7/19 開催。期間中來場者 509 名。 (前年度來場者 500 名) 作家の個性溢れる多彩な作品を鑑賞できるということで、概ね好評だった。工芸体験教室は7/3に開催し参加者9名。参加者は少なかったが、普段できない体験に参加者からは好評であった。	陶芸、琉球ガラス工芸のみの展示であるが、村内には他の工芸に取り組む作家もおり、そうした作家とも連携し、出展内容の充実を図るとともに、体験教室への地域住民の参加についても向上が図られるよう努める。	B	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
企画展「恩納村の文化のかおり～新収蔵品展～」	博物館が収蔵する資料や文化財の資料を活用し、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化財に対する理解を深めてもらう場とする。	・毎年の企画展をとおして、資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。	・近年の村民からの寄贈や調査等で増加した資料、修復が完了した地図資料などを展示し、積極的な情報の発信を行った。	8/3～10/3 開催。期間中來場者 1053 名。 (前年度「昆虫展」來場者 2,435 名) 平成 13 年度から平成 21 年度までに寄贈された新資料や修復の終わった「恩納間切・村地籍図等資料」、塩屋貝塚、太田古墳の調査資料を展示し、博物館の資料の活用や村民への情報の公開を行った。	・毎年の企画展をとおして、広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。	A	①現状で継続
(共催)平成 22 年度沖縄県芸術文化祭写真選抜展	沖縄県、沖縄県文化振興会主催の「沖縄県芸術文化祭」の移動展を受け入れ、村民が芸術作品を鑑賞する機会を設け、芸術振興に資することを目的とする。	前年度取り組みなし	入賞者作品、審査員出展作品などの芸術性の高い作品と入選作品のうち、自然を題材とした作品を中心に選抜し、展示を行った。	11/2～11/7 に開催。期間中來場者 131 名。 57 点の写真芸術作品を展示した。來場者はじっくりと作品を鑑賞しており、好評を得た。	來場者がそれほど伸びなかった。作品借用可能な期間の日程もあり、展示会の開催期間が短いので、効率的な広報を行いたい。	B	①現状で継続
サンセットコンサート	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	前年度は、日程・出演者等の調整が出来ず、開催することが出来なかった。	村内在住の県立芸大 OB を中心としたメンバーの人材を活用し、公演及び出演者の依頼を調整。	平成 23 年 3 月 21 日に開催。來場者約 115 名。(アンケート回答者 51 名。村内 31 名、村外 16 名、県外 4 名)琉球楽器と洋楽器の合同演奏会を行い、村内からも多くの來場者があったが、周辺市町村、観光客の來場者もあり、博物館展示ホールの容量いっぱいとなった。	会場で実施したアンケート結果を踏まえ、琉球古典音楽だけではなく、多彩な内容で開催していきたい。	A	①現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館講座「恩納村の沖縄戦～壕・避難地・収容所～」	村民や村外の方を中心に今回は字恩納の當間嗣長さんの戦争体験についての講演会を開催した。	文化講座などの講演会の充実を図りたい。	前年度は「昆虫標本づくり」(34名)、「竹細工教室」(23名)の体験教室を実施した。今年度は地域の方を講師に恩納村の特色ある講演内容で、講座の企画を行った。	平成23年3月26日開催。来場者18名(村内16名、村外2名)。沖縄戦当時の恩納村の様子を知る機会となった。また、戦争体験を講演する様子を記録映像として撮影も行った。	講演会の内容、広報の期間・方法等を検討し、より多くの地域の参加者の増加を図る。	B	①現状で継続
博物館年報の刊行	恩納村博物館のこれまでの活動に関する情報をまとめることで、今後の活動、方針を決定する際の指標とすることができる。記録することにより将来的な資料とすることもできる。	恩納村博物館の活動について、情報のまとめ方や掲載する内容について検討する。	展示会の様子の写真の掲載や展示会での展示配置図の掲載など今後の資料となる情報を積極的に掲載する。	平成20年度・21年度の博物館の活動の情報をまとめて報告。情報の整理、博物館年報を作成した。	過去の事業によっては詳細な情報が記録されていないこともあるので、年報作成にかかわらず、今後活用できる情報の記録の仕方を検討する。	B	①現状で継続
歴史ロードを歩こう事業	文化財を見て、聞いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図った	年々参加者増加による対応方法について	安全確保のための職員の配置及び文化財ボランティアガイド「道の会」の活用。子供会へ呼びかけし村内参加者の促進を図る。	参加者は80名。(村内57名、村外34名。安富祖子供会が参加。前年度参加者75名)村内外からの参加者が多く、また参加したいという意見が多く寄せられた。	村内の参加者の増加を図るためにさらに積極的に広報活動を行う。「道の会」の案内方法について情報交換等を行い検討する。	A	① 現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
親子文化財めぐり	親子で文化財めぐりを行うことにより、歴史や文化財への認識を高め、文化財保護の啓発を図る。	継続して参加者が理解しやすい学習機会となるよう努める	案内資料に写真やイラストのマンガなどを入れてわかりやすい補足資料を配布した。	参加者は30名。太田子ども会の親子を対象に実施した。(前年度はインフルエンザの影響により中止)村に関連する護佐丸や地域の文化財について子どもたちにとって楽しみながら理解しやすい学習機会となった。	継続して村内の学校、子ども会へ参加の呼びかけを積極的に行い、ふるさと学習の機会の充実を図る。	A	① 現状で継続
村指定文化財保護審議会	村指定文化財の保護と活用	継続して文化財の保護及び活用に努めるとともに指定文化財の確保に努める	村内に所在する指定文化財の増加を図るため、文化財保護委員会で指定候補文化財について審議した。	今年度は1回の審議会を実施。村内の拝所等を文化財指定候補として検討した。文化財保護審議会委員と一緒に現地視察等を実施し、村指定文化財の増加を図った。	継続して文化財の保護及び活用に努めると共に指定文化財の増加に努める	B	① 現状で継続
国庫補助事業恩納村内遺跡発掘調査等	国庫補助4カ年事業で、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調査に必要な確認調査の実施。	引き続き増加する開発に伴う埋蔵文化財の調査を実施し、その保護に努める。	開発などに伴う埋蔵文化財の周知を図るために調査を継続して実施した。埋蔵文化財の詳細な位置や内容を確認するために表面踏査を実施するとともに確認された遺物の整理作業を実施した。	谷茶～仲泊を中心に村内の埋蔵文化財の分布状況確認及び新規に10箇所埋蔵文化財包蔵地を発見した。 安富祖区1カ所 太田区1カ所 南恩納区4カ所 谷茶区1カ所 富着区1カ所 山田区1箇所 塩屋区1カ所	事業最終年度となる平成23年度には分布調査及び開発に伴う調査及び平成20年度からの調査成果をまとめた報告書を刊行する。	A	① 現状で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
国庫補助事業山田城跡保存管理計画策定事業	国庫補助2カ年事業で、国指定史跡「山田城跡」の保存管理計画策定事業の実施。	保存管理計画を平成22年度に刊行するため、策定委員会の開催と資料の収集及び作成に努める。	保存管理計画を策定するために会議を実施。文化庁調査官及び県教育委員会の指導のもと事業を実施した	年3回の審議を実施した。山田城跡の保存管理に関する基準及び基本方針や史跡整備の方向性について専門の委員に審議してもらい事業を実施した。予定では22年度完了であったが、審議が難航し、完了できず23年度継続となった。	継続して平成23年度にも審議会を実施し、計画書を刊行する。	B	① 現状で継続
受託事業 安富祖ダム埋蔵文化財発掘調査	安富祖ダム建設に伴い恩納村長から受託し埋蔵文化財緊急発掘調査及び報告書刊行を実施。	前年度取り組み無し		安富祖ダム建設予定地に係る遺跡の保護のため一部計画変更を調整し、工事に係る範囲においては文化財保護法に則り緊急発掘調査を実施し、成果を報告書にまとめ刊行した。事業が完了した。		A	③事業の廃止（完了）

5 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
栄養教室の開催	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	継続的实施していく必要がある。	年間を通して指導が行えるよう各学校と調整を図る	給食時間を利用して、食に関する指導を継続的に行うことができた。	給食時間以外の栄養教室の開催できる時間の確保	B	①現状の内容で継続
村産食材の積極的な活用	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	食材の確保の仲立ちをするコーディネーターの確保	生産者と連携して村内の農産物を活用した。	村内の農水産物を継続的に活用することができた。	地産地消をもっと積極的に活用するために情報収集とフードコーディネーターの確保が必要	B	①現状の内容で継続
給食センター見学の推進	給食の調理の状況を見学させて、その安全性を認識させる。	衛生管理を児童生徒に教えるためにも継続して行きたい。	毎年給食センターの見学が行えるよう各学校と連携し、行事として取組めるよう調整する	給食センター見学をとおして、衛生管理を理解させることができた。	各学校の年間計画の中で取組んでもらえるような対応が必要。	A	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上	安全で質の高い給食の提供するため、各自治会を通して徴収し、未納者はセンター職員が直接徴収。	給食費の納付に対する義務意識がない未納者に対する対策必要。	滞納者に直接お会いして、未納理由を聞くと共に、分納相談等に応じた。	少数ではあるが、分納で納めるようになった。	納付義務意識を高め、口座振替を推進する。準要保護の制度も周知していく。	B	①現状の内容で継続

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役職	氏名	任期	備考
委員長	大城勝泰	平成23年11月1日～平成25年10月31日	元教育委員・元村議会議長
副委員長	金城啓	平成23年11月1日～平成25年10月31日	前石川高等学校校長・現安富祖校学校評議員
委員	真栄城慶子	平成23年11月1日～平成25年10月31日	元村子供育成会会長

(2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、11月8日、11月14日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題の把握の根拠などについて、担当課長及び担当者の出席を求めて説明を受けながら評価を行いました。また11月24日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行いました。その結果を答申いたします。

記

1 点検評価報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により外部評価を取り入れた事務事業点検評価も今回で3年目ということで軌道に乗ってきたという感じがします。点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題についても、昨年同様に、わかり易く丁寧にとまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺えました。

評価基準、評価シートについてもPDCAサイクルに沿って事業展開ができるよう改められ、その結果に基づいて次年度以降の事業展開の方向が示されていることから、担当職員の意識改革につながり効率的な事業展開が期待できると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、常に点検や評価を繰り返すことが重要だということが確認できました。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取り組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思います。

また、各事業について企画段階での数値目標を明らかにし、数値目標の達成状況に応じた評価を行うと共に、事業実施に要した経費を表示することで費用対効果も含めて村民目線で評価できるものと思います。今後ご検討をお願いしたいと思います。

2 教育委員会の活動内容について

教育委員会の会議や主催行事等への参加状況、研修会や懇談会への参加状況が詳しくまとめられ活動内容が良くわかりました。入学式・卒業式・運動会等の学校行事への積極的な参加や県教育委員会連合会、中頭地区教育委員会連合会主催の研修会への参加、村長との意見交換会、校長会との懇談会の取組み、地域懇談会への参加など課題克服に向けた取組みなど新たな取組みが行われ委員会の活性化につながる活動をされていることを感じました。

今後とも創意工夫を取り入れながら学校、地域との連携を深め本村教育の充実発展に努められることを期待します。

3 事務事業の評価について

今回は 79 件の事務事業の内部評価を点検しました。その評価内容につきましては、目標が達成できたとする A 評価が 25 件、目標が概ね達成できたとする B 評価が 49 件、事業の廃止や目標が一部しか達成できなかったとする C 評価が 5 件、目標が達成できなかったとする D 評価は 0 件となっており、昨年から新たに評価指針として加えられた目標以上の効果を出したとする S 評価はありませんでした。

取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと思います。しかし、教育振興備品の充実事業は自己評価では A 評価となっておりますが、備品の監査及び計画的な備品の購入ができたということでの評価となっております。昨年課題として挙げたにも関わらず改善されていません。学校備品は村の財産であり、その有効活用を図るためには、教育委員会で一括管理する必要があります。教育委員会での一括管理が行われていないことから B 評価が妥当だと思います。

また、社会教育所管事業の国際交流派遣事業は人材育成の観点から有益な事業ですが、応募者が前年同様 6 名と極端に少なく、事業の内容や募集方法の見直しが必要だと思われます。予算どおりの事業が実施できたということで、自己評価で B となっておりますが、現在の高校生、中学生限定を改め、広く一般を含めた派遣や派遣事業以外の国際交流事業についても検討するべきだと考えます。

C 評価の 5 件につきましては、恩納村テスト事業、宿泊学習事業、学校週五日制対応事業、社会体育事業の新体力テスト事業、学力向上対策事業の問題データベース事業となっておりますが、宿泊学習事業につきましては 3 校が共同実施、2 校が単独実施となったことによる評価、学校週五日制対応事業は 4 団体の計画が 1 団体の実施となったことによる評価、社会体育事業の新体力テストが福祉まつり事業との共同開催が出来なかったことによる参加者の減少による評価、学力向上対策事業の問題データベース事業は、活用について学校間の差が大きいことや効果的な活用が見られないとの理由による評価となっております。ただ、この問題データベース事業は、導入当初は学力向上対策事業の目玉事業として導入されたにも関わらず、僅か 1 年で利用状況について学校間で差があるということを理由に事業を廃止することになっておりますが、廃止するに足る検証作業、廃止する状況説明が充分ではないのではと考えます。

D 評価につきましては、今回はありませんでした。

なお、外部評価をしていく中で委員から多様な意見や提言がありましたので、主なものを列記致します。

- ① 青年教室街づくりシミュレーションについては、良い取り組みだとは思いますが、参加者が 14 名と少なく効果が限定的である。青年だけの対象に限らず対象年齢の範囲を広げる等全体的な効果に繋がるような対策を講ずるべきである。
- ② 博物館運営については、博物館運営協議会は、博物館運営に関する事項を協議するための協議会であり、博物館運営の根幹をなすものである。協議会の中で事業計画等を精査する等協議会を十分に活用し、数値目標を設定するなど事業を実施するべきである。
- ③ 社会教育事業は、多岐に渡っているが、その対象者が競合しているものが多々あり、そのことが参加者の負担につながっていることが懸念される。今後、事業の内容を点検し、整理統合を行い、成果があげられるような知恵と工夫が必要である。
- ④ 体育施設指定管理に伴う、当該施設の雇用確保については、村民雇用を優先で対処するよう十分な対応が必要である。
- ⑤ 給食センターの村産食材の積極的な活用については、昨年からの食材の確保の仲立ちをするコーディネーターの確保が課題となっているが、村産食材の利用率が低く、今年度も同様の課題となっている。道の駅「なかゆくい」等との連携による村産食材の活用を図り、地産地消を推進していく必要がある。

その他、個別の事業については審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することはできません。資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

4 まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の

意見がどの程度即効性をもって反映されているか疑問視されますが、今後とも各事業に対する費用対効果が拡大されるとともに、前年度評価した内容が次年度以降の事業執行、予算等にどの程度反映されたのかが明らかになっていると外部評価がしやすいのではないかと思います。

今回の総合判断では、69件の事業で現状のまま継続と評価していますが、これを受けて前例踏襲により漫然と取組みを継続していくことのないよう、客観的で正確な状況分析を的確に行い、常に新たなる発想による効果的な手法が無いか問題意識をもって事務事業の遂行に当たっていただきたいと思います。

事業は実施するだけでなく実施後に検証を行い、課題を見つけ出し、次年度はその課題を事業目標に掲げ解決に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことがマンネリ化を防ぎ、効率的な事業推進につながります。また職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、高い事業目標を掲げ、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村教育の更なる振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

5 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって3回目ということで、このシステムについても各担当者に浸透してきました。今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思います。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善やより効果的な事務事業の実施と内容の充実に努めてまいります。

年々複雑多様化する教育の更なる発展に向けて常に現場の声に耳を傾け、計画的、効率的に教育行政の推進に努めるとともに、点検評価を取り入れながら、より一層の教育活動を展開して行きたいと思います。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成23年12月

恩納村教育委員会